



仙台工場 佐藤 桂

「従業員を探しているんだけど、心当たりはない？」

きっかけは、さくら株式会社社長・高橋和義からのそんな一言だった。友人でもある高橋が経営しているのは、一体どのような会社なのだろう。事業内容以上に、高橋の人柄に惹かれて入社を決意した佐藤桂は、まったくの異業種から建設業界に飛び込んだ。手探りの状態で現場に立ち、一歩ずつ前に進んできた、今日までの道のりを振り返る。

思い切って、新しい世界へ

佐藤が仙台の地を踏んだのは、18歳のときだった。地元を遠く離れたこの土地で知り合ったのが、高橋だ。友人として絆を深め、定期的に連絡を取り合う仲へと発展していく。そんなある日、さくらを立ち上げた高橋から「従業員を探している」と連絡を受けた。「俺が働くよ。」

思わずそう言って手を挙げて

いた。高橋が求めているのは、即戦力として働ける経験者。佐藤自身はまったくの未経験だったが、友人である高橋の人柄に惹かれていたこともあり、ともに働いてみたいと考えたのだ。

「経験者」という条件には満たなかったが……

とはいえ、すぐに歓迎されたわけではない。さくらが募集していたのは、あくまでも「経験者」だったからだ。それでも佐藤は諦めなかった。

「どんな仕事でもする。」

「どこへでも出張に行く。」

言葉を重ねてアピールを続けるうちに、佐藤の熱意はたしかに高橋に届いた。こうして佐藤は、さくらの一員として新たな一歩を踏み出したのである。

「10年以上にわたって身を置いてきた前職を辞めるのに、未練のようなものがあったのも事実です。」



▲仕事中

当時の佐藤は、サービス業界で3店舗の管理を任されていた。積み上げてきた経験や築いてきた人脈は、言葉では言い表せないほど大きな財産だ。それらをすべて手放してでも、高橋のもとで働いてみたいと思ったのだ。惜しまれながら退職し、新たな挑戦がここからはじまった。

自信を失い、肩を落とした入社当初

2019年、活躍の場をさくらに移した佐藤を待ち受けていたのは、険しい道のりだった。

「もともと器用なタイプだという自信があるため、配管の仕事も

すぐに覚えられると思っていました」。

けれども、その自信はあっけなく打ち砕かれることとなる。まず、道工具の名前がわからない。目にするものや耳にする言葉も、すべてが未知の世界。まさに「右も左もわからない」状態だった。それ以上に佐藤を打ちのめしたのは、ほかならぬ自分自身。指示通りの動きが、なぜかまったくできないのだ。たとえば「この部材を2メートルの長さに切ってくれ」という指示を受け、長さを測ってカットする。しっかり確認したはずなのに、切った部材は2メートルに満たない長さしかない……そんなことも日常茶飯事だった。信じられないほど初歩的なミスに、自分自身が誰よりも驚いた。何度も同じミスを繰り返して、厳しく叱責された日もある。なかなか満足な仕事ができず、焦りばかりが募っていった。

不安の中でも顔を上げ、前へ

「入社してすぐの頃は、誰でもそうだよ。」

ミスばかりして焦り、落ち込んでいる佐藤を、優しくフォローしてくれる先輩もいた。そのあたたかい心遣いがありがたく感じながらも、自分の不甲斐なさが悔しくてしかたがなかったという。焦れば焦るほど、取るに足らないミスをしてしまう。気持ちばかりが先走る、そんな毎日が実に1年近くも続いた。

「果たしてこのまま、ここでやっていけるのだろうか……」。

不安が頭をよぎるたびに、その気持ちを振り払い「やるしかない！」と自分を奮い立たせてきた。一つずつ着実に仕事を覚え、目の前の作業を確実にこなす。こうして小さな努力を重ねていくと、あるとき、仕事の全体像が見えてきた。それはまるで、目の前が明るく晴れていくような感覚だった。知識を身につけ、経験を積むごとに、失った自信も取り戻されていく。すると、仕事に楽しみを見出せるようにもなった。そんな佐藤が目指す、これからの姿とは。仕事におけるモットーや、今後の目標に迫る。

(後編に続く)

企業情報

設立年：2012年4月
年商：608,257,000円
※2020年3月決算時点



コバヤシの現場



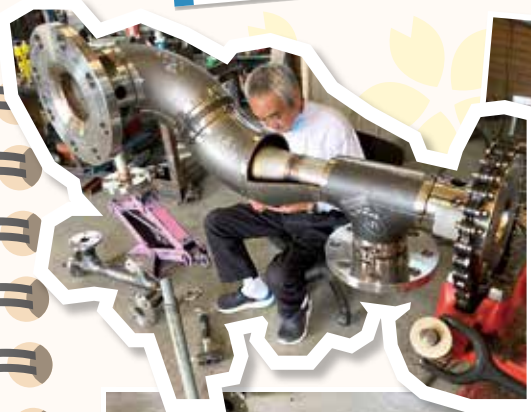
この日は晴天!
気持ちの良いお天気での
作業は捗ります!

現場 PHOTO!



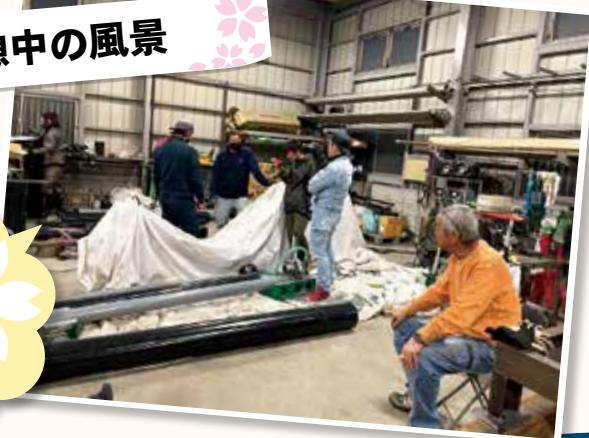
さくらで働く皆さんは、普段どのような現場でお仕事をしているのでしょうか?今回はご家族の皆さんにもイメージしていただきやすいように、お写真で現場の様子をご紹介します!

ユニット制作の様子



こんな部品を
使用しています!

休憩中の風景



休憩中は
皆で談笑して
リフレッシュ♪



今だから話せる!

昔の

大失敗

エピソード



東海営業所 所長
いとう ひさお
伊藤 寿雄さん



新人時代に失敗は付きもの。偉大な先輩方は、過去にいくつもの大きな失敗を経験し、そこから成長をしています。今回は伊藤さんに、失敗から得た学びを教えてくださいました!

目を離れた際に……?

20年ほど前、初めて現場責任者として空調配管の改修工事を担当した、病院の現場での失敗経験です。工事をした6階のフロアには医師も患者も居らず、無事に配管工事とその後の水漏れテストまでを終えることができました。工事終了後、監督と打ち合わせをするためにその場を離れていると、なにやら騒がしい音が……。様子を見てみると、6階で病院の職員や若手職人がほうきやモップを持って走り回っていたのです。どうやら、若手の職人がバルブを開けてしまったようで、「開けてはいけない、なんて言わなくても大丈夫」と、自分の勝手な判断で指示を疎かにしてしまったことを今でも悔やんでいます。

自身の失敗経験を踏まえてのアドバイス

自分にとっては「当たり前」と思っていることでも、一つひとつ丁寧に説明・指示することが重要です。若手の皆さんも、上司の言うことにはしっかりと耳を傾けて聞いてください。そこには大事なアドバイスがたくさんあるはずです!

Message

伊藤さんから寺澤彰洋さんにメッセージが届きました!



配管 工事主任 寺澤 彰洋さん

彰洋とは、お互いの現場を助け合うことも多く、私にとってはとても信頼できる存在です。
改めて、いつもありがとう!
現場で上手くいかないことがあると、すごく悔しがっている姿を見かけます。責任感が強いが故に、抱えこんでしまうのも分かりますが、もう少し楽に向き合ってみて、周りを頼ってほしいと思います。
また僕の現場にも呼ぶので、お互いを頼りつつ、精一杯手助けしてください!
ゴルフでは近いスコアばかり出しているのですが、スコアに差をつけることが最近の密かな目標です……!絶対に負けません!(笑)

皆さんからのメッセージも大募集!

「いつもお世話になっているあのひとへ」「普段は伝えられない感謝の気持ちを伝えたい」など……、社内報を通してメッセージをお届けしましょう♪
QRコードのアンケートからご回答お待ちしております!



From. 東海営業所 所長 伊藤 寿雄さん